

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターおひさま		
○保護者評価実施期間	2024年12月2日 ～ 2024年12月27日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	35名	(回答者数) 26名
○従業者評価実施期間	2024年12月2日 ～ 2024年12月27日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 12名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年1月6日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の数が多く、一つの教室も広い。</li> <li>・児童の活動に合わせた空間となっている。</li> <li>・事業所のサービス利用時間が長く、療育時間の確保が出来る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用する児童の状況に応じて、教室内を構造化している。</li> <li>・視覚支援を通して、自分で確認して行動出来るよう、促している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用する児童の特性に応じた、職員配置や受け入れの人数、もしくは、活動の設定がしやすいように発達段階に応じた曜日の設定などを行うとより、個別支援計画書に基づいた支援に繋がるだろう。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・専門職の配置もされており、より質の高い療育を目指すことが出来る。</li> <li>・個別支援計画書の作成に携わることでガイドラインやプロセスを意識した支援が出来ている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的に会議を設け、様々な視点から情報を集め、見立てることが出来る機会を作っている。</li> <li>・個別支援計画書の内容など一人一人の情報を職員であれば、誰もが閲覧できるツールを用いることで、申し送りの時間の短縮を行っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アセスメントする力をつけることが出来るよう、研修の実施や個別支援計画書の作成に携わる機会を作り、一人一人が理解して支援が出来る体制作りを行っている。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同じ敷地内に放課後等デイサービスや相談支援事業所などがあり、情報共有を図りやすい。</li> <li>・園庭を地域に開放やファミリー学習会、療育参観など地域や保護者との関わりが多く持てる機会を作っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・互いにコミュニケーションを図れるよう、連絡を取り合ったり、時間を作って情報共有を行う機会を作っている。</li> <li>・利用しているご家族だけではなく、園庭に遊びに来た地域の子と話したり、公文を利用している保護者やお子さんと挨拶を交わし、顔を合わせた関わりを意識している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通認識を持つことが出来るよう、児童発達支援管理責任者が中心となって連携を図っていく。</li> <li>・学習会や療育参観など、お仕事の都合で難しい方の対応を考えることで、より事業所の取り組みを知ってもらえるのではないかと感じる。</li> </ul>

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・療育時間の確保は出来ているが、休憩時間を取る事が難しい。</li> <li>・教室の数も多く、広さもあるが、個別の空間を作る難しさがある。(クールダウンスペースの確保の難しさ)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい職員が多いのもあり、スキルの向上が難しかった。</li> <li>また、利用児童の発達段階のばらつきがあり、グループや集団で見る配置の難しさがあった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少ない人数でも配置することが出来るよう、活動のスケジュールを考えている。難しい場合は、他部署と連携を図り、人員の補充を行っている。</li> <li>・発達段階に合わせたクラス編成や部屋割りなどを工夫していく必要がある。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員の異動などがあり、業務負担の個人差がある。</li> <li>・4月での異動となるため「療育とは」ということが分からず、現場に入り、職員の精神的、体力的な負担が大きい。</li> <li>・コミュニケーションを図ることの基準が事業所として設定されていないため(上司判断)自己判断が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分からない事ばかりで、日々の忙しさからゆっくり話す時間も少なく、自己判断が求められていた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しく入職する方に必ず、先輩職員を配置するなど様々な悩みを共有する機会を作る。(指導する先輩を1年間配置し、サポート体制を作る)</li> <li>・ハウスルール等の見直し。</li> <li>・研修の機会の確保。</li> </ul>
3			